



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ソニー 成長の壁

はじめに

5

今、世界で最も注目を集めている企業といえば、ソニーではなかろうか。CBSレコード、コロムビア・ピクチャーズとM&Aによって傘下に納め、総合エンターテインメント企業へと変身を遂げている。戦後、ベンチャー企業としてスタートした当初は、「毎日、給料をどう払おうかと頭を痛めていた」（盛田談）という弱小企業であったソニーも、現在では約10万人の従業員を抱え、世界的にも知らない者はいないと言われる程のコングロマリットへと大きく成長した。

10

しかし、ソニーという企業の実態となると、意外に知られていないのが現実である。このテキストでは、あらゆる切り口からソニーを検証してみた。提示された数々の情報を、その背後に至るまで考察し、ソニーの真の姿を良く読み取って頂きたい。

15

SONYの歴史と沿革

1. ソニーの誕生

「技術の天才」井深大（現名誉会長）と「販売の天才」盛田昭夫（現代表取締役会長）。ソニーのストーリーは、この2人が会うところから始まるのである。

20

太平洋戦争の戦火が激しくなっていた1945年（昭和20年）、兵器開発のために開かれた戦時研究会で、日本測定器という会社の常務だった井深と、海軍技術中尉だった盛田は初めて顔を合わせた。互いの技術論にひかれ合うものを感じた2人は、親しくつきあうようになるのだが、やがて戦争の混乱の中で消息が途絶えてしまう。

同年10月、敗戦で焦土と化した東京。井深は数人の仲間とともに、日本橋白木屋（現在の東急百貨店）の3階に『東京通信研究所』の看板を掲げ、ラジオの修理と改造を請け負い始めた。情報に飢えていた当時の人々にとって、ニュースの聞けるラジオは、食糧の次にほしいものであった。井深たちの仕事は町の話題となり、朝日新聞の「青鉛筆」というコラムでも紹介された。

25

その記事を遠く離れた愛知県で読んだのが盛田であった。終戦で実家に帰っていたのであ

30

本事例は「技術と経営」のコースの為に作成した。
本資料の責任は制作者にある。

[作成者：許斐義信]